

週 報

日本キリスト教団

みなみやま

南山教会

<年間聖句>

「あなたの未来には希望
があると主は言われる」

(エレミヤ書31章17節)

<年主題>

未来の希望を信じて歩む



Since 1947. 8. 1. 創立78周年

〒470-0111

愛知県日進市米野木町南山983-16

(愛知牧場内)

牧 師 村山盛芳

伝道師 大塚 勁

伝道師 大塚 棕

TEL 0561-73-6781 FAX 0561-76-3005

教会メールアドレス minamiyama@mb.ccnw.ne.jp

HP www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/

先週の説教から

「わたしは主である」

出エジプト記6章2節～13節

出エジプト記6章は、イスラエルの民が奴隷としての酷使と希望の喪失の中で、モーセの語る神の言葉に耳を貸さなくなっている情景から始まります。信じたいのに信じきれず、祈りたいのに祈る力さえ湧かない——そんな彼らの姿は、病、家庭の問題、孤独、将来への不安など、私たちが現代で経験する弱さや疲れに重なります。しかしこの絶望のただ中で、神は沈黙せず、「わたしは主である」と宣言されます。これは「約束を守る神が今まさに行動し始める」という決定的な宣言です。

神は民の嘆きを「聞き」、先祖アブラハム・イサク・ヤコブと結んだ契約を「思い起こし」、救いのために「行動する」と語られます。聖書における「思い起こす」とは、忘れていたことを思い出すことではなく、「約束を実現するために立ち上がる」という意味をもちます。民の信仰が弱っても、神は民を忘れず、その痛みに応えられます。人間の信仰が揺らいでも、神の記憶と約束が揺らぐことはありません。そこに、絶望のただ中に差し込む希望があるのです。

一方のモーセもまた、「自分は口下手で、人々に受け入れられない」と弱さを訴えます。しかし神はモーセを責めず、兄アロンを備え、協力して使命を担わせます。ここには、神が「弱者を用い、支え合う関係を通して働かれる」という神の方法が示されています。モーセとアロンの協働は、今日の教会における世代間の協力や、弱さを認め合う共同体の姿にも重なります。

現代の私たちも、信仰の言葉が届かない、祈りが空回りするように感じる瞬間があります。しかし、神の言葉は人間の反応によって消えたり弱まったりするものではありません。戦後の日本の教会が小さな祈りと献身を積み重ねて歩んできたように、神は時をかけて約束を実現し、語り続けてこられました。信仰とは、すぐに結果が見えない中で「待つ力」であり、神の語りかけを聞き続ける姿勢でもあります。最後に響く「わたしは主である」という言葉は、変わらない土台です。私たちが弱くても、祈れなくても、迷っていても、神は覚え、導き、約束を果たされるのです。

(大塚棕)

110114・11・1111 日曜礼拝 10時開始
21:00まで

愛知牧場内
日曜礼拝 10時開始
21:00まで

御 参

参 来 110分 (10時開始)

主の祈り 15分 (11時開始)

聖 書 出エジプト記6章2節～13節
(出エジプト記6章)

祈 禱 同前

説 教 「わたしは主である」

祈 禱 大塚 棕

今日の讃美歌 110番

主の祈り 15分

讃美歌 110番 (主の祈り 15分)

献 金 15分 (11時開始)

参 来 11分 (11時開始)

祝 禱

後 参

… 参 来 …

礼拝の案内 愛知牧場QRコード
何となくお祈りください。

